

氣にさらされた場合。結果は複雑で實用的でないが、從來誤つて解かれていたので、口頭によつて簡単に發表することとした。

2-2. 火花點火機關の筒温について (8) ○飯沼一男, 山崎毅六。火花點火機關の筒温におよぼす運轉條件や燃料の種類などの影響について CFR 機關で實驗しノッキングとの關係その他について論ずる。

2-3. 火焰速度對にする混合氣温度の影響 (バーナー法) (8) ○山崎毅六, 加藤芳雄。揮發性燃料の成分として代表的な化合物の火焰速度をバーナー法によつて測定した。焰速に及ぼす混合氣温度の影響について述べる。

1-4. 酸化遅れの温度係數 (8) ○山崎毅六, 山田實。アルコール類, アセトン, エーテル類の蒸氣と空氣との混合物を石英管内で熱し温度と酸化遅れとの關係を求めた結果について述べる。

2-5. 鱈油の分子蒸溜 (10) 永井雄三郎, ○山路麿。鱈油並びに之は脱酸處理したものを分子蒸溜し各溜の性質を調べて之を比較考察した。

2-6. 真空油に関する研究 (第1報) 永井雄三郎, ○高橋猛夫。市販の國産擴散ポンプ油及び原油よりの試製品について物理的性状及びヒックマンポンプに使用した場合の到達真空度を測定した。

2-7. 潤滑油の油性に関する研究 (第6報) 油性劑として鉛石鹼及び硫化油を用いた時の温度摩擦關係 (10) 永井雄三郎, ○宮崎洋。精製スピンドル油に微量のオイイン酸鉛を添加した場合及び硫化油を共に添加した場合について温度と摩擦係數の關係を研究した。

2-8. 耐寒性グリースにする研究 (第3報) スクアラン, グリースの低低温度特性 ○山口文之助, 飯島健介。耐寒性及び安定性の優れたスクアラン, グリースを各種調製し, それらの低溫稠度特性を著者の發案による特殊の粘度計で測定した。尙それらのグリースの安定性 (耐離漿性) 及び滴點等の検査を行った。

2-9. 摩擦と分子層の厚さ (10) 曾田範宗, ○宮川行雄。ラングミュア プロジェクトの方法で固体面上に各種厚さのステアリン酸分子層を built-up し, 摩擦特性 (荷重面積, 材質, 温度等の影響) を調べた。

2-10. 境界潤滑における粘度の問題 (10) ○曾田範宗, 高橋浩。境界潤滑における適性粘度の問題を摩擦, 摩擦, 油膜強度とくに油膜強度との關連について述べる。

2-11. ころ軸受のころの温度上昇 (8) 曾田範宗, ○深谷敏夫。各種軸回轉數に對するころの温度上昇を前回と異なる方法で求め, 外輪の温度上昇を比較考察した。

2-12. 平面上の球のころがり摩擦について (第1報) (10) 曾田範宗, ○甲藤好郎。接觸壓力が材料の強性限界を越えた場合につき, 球平面のころがり摩擦が繰返しころがりによつて變化して行く模様ならびに油脂の薄膜の有無の影響について述べる。

2-13. 擴散ポンプ油の熱分解 (7) 笹岡作五郎。各種の擴散ポンプ用油の真空中に於ける熱分解の狀況を測定し化學的成分との關係及び再製法を吟味する

2-14. 油擴散ポンプについて (10) ○柴田英夫, 辻泰。最近試作した金屬製分溜型油擴散ポンプにおける排氣速度と逆擴散について基礎的な資料を求めた結果を報告する。(13時-17時)

2-15. 球を過ぎる粘性流に関する數値解(III) (10) 川口光年。Thom が, 圓柱に對して使つた數値積分法を球に擴張して, 前に求めた解を出發點として, $R=20$ の場合を計算した。

2-16. 橢圓柱を過ぎる高速流 (M^2 展開法の第二近似) (10) 川口光年。 M^2 展開法によつて橢圓柱の表面上の速度の第二近似の公式を出した。

2-17. 高速氣流の中の任意翼型のまわりの壓力分布 (10) 今井功。前に W. K. B 法を用いて高速氣流を取扱う方法を考案した。これを基として任意翼型の壓力分布の數値計算方式を作つた, NACA 0012 翼について實例計算を行ない緩和法による Emmons の結果を比べる。

2-18. 非常に薄い翼型を過ぎる音に近い流れ今井功。音に近い流れに對して特に近似の良いような形で薄翼展開法の簡單化を行なつた。正弦波型の壁に沿う流れ, 橢圓柱を過ぎる流れに對して具體的な應用を試みる。

2-19. 超音流速に関する計算 (10) ○河村龍馬, 小口伯郎。三次元軸對稱の場合の角を廻る流れについて計算し二次元の場合と比較する。

2-20. 地表面附近の風の構造に就いて (8) 河田三治。海岸及び内陸にて地上 6m 附近までの風速分布を精密に測定した結果に就いて報告する。特に海岸の風の特異性に就いて論ずる。

2-21. 地表風の亂れについて (8) 井上榮一。風の亂れは測定の裝置と操作とによつて變化する。その